

②さいたま市図書館の一年

1 さいたま市図書館における新型コロナウイルス感染症対応について

新型コロナウイルス感染症への対応は、足掛け3年となりました。令和3年度は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間中、中央図書館（4月20日から9月30日）及び大宮図書館（4月20日から10月24日）で閉館時間の繰り上げが行われました。感染症対策は昨年度と同様に、閲覧席の間引きや消毒、カウンターのパーティションの設置、人数を減らしてのイベントの実施等を行いました。今後も感染症対策と図書館サービスの継続を両立させるべく、取り組んでいきます。

2 「さいたま市図書館ビジョン（第2期）実施計画 前期」の策定

「さいたま市図書館ビジョン（第2期）」を実現するため、個別の具体的な事業を計画的かつ効果的に推進することを目的に策定しました。

この「実施計画（第2期）前期」は令和3年度から令和7年度までの5年間の計画期間とし、毎年度、事業の進捗状況について点検及び評価を行い、必要な措置を講ずるとともに、結果を公表します。

3 「さいたま市子ども読書の日」の創設

令和3年4月23日に「さいたま市子ども読書の日」が創設され、毎月23日を「さいたま市子ども読書の日」としました。夏休み期間中に、創設を記念したキャンペーンを各図書館、保育園・幼稚園、公民館、児童センター等で実施しました。今後も様々な機関と連携して普及啓発を行うとともに、子どもの読書活動を推進します。

4 石井桃子生誕115周年

さいたま市ゆかりの児童文学者・石井桃子氏の生誕115年を記念し、中央図書館・北浦和図書館でドキュメンタリー映画の上映会や特別展示を開催しました。

また、図書館ホームページでは、クイズに挑戦することでより詳しくなれるコンテンツを新たに作成し、非来館型サービスの充実にも努めました。引き続き幅広く利用しやすい図書館となるようサービスを提供してまいります。

5 桜図書館「五関の張り子」の寄贈・展示

令和3年度、五関の張り子の製作者である山崎楽山氏より、張り子の面、人形など計19体が桜図書館に寄贈されました。これは、令和2年度に桜図書館15周年記念事業「桜区の物産今昔～浦和五関の張り子、埼玉の張り子」を開催した折に、浦和博物館所蔵の山崎氏の作品を展示したご縁によるものです。寄贈された作品は、2階フロアにて常設展示しています。

五関の張り子とは、桜区五関において、昭和40年代頃まで盛んに作られていた郷土玩具です。明治時代初期に始まり、蓮見家4代にわたり受け継がれました。面、ダルマ、人形などがあり、人形は首を縦に振るのが特徴です。現在5代目として技術を引き継いだ山崎楽山氏は、令和3年度、さいたま市の「伝統的な工芸技術を継承する事業所」に認定されました。

桜図書館では、こうした地域の貴重な財産である五関の張り子の寄贈を活かし、展

②さいたま市図書館の一年

示して広く一般に公開し、積極的に地域文化を発信するという役割を果たすとともに、今後とも地域に関わる資料の保存・収集に努めていきます。

6 与野図書館開館 50 周年

与野図書館は、令和3年4月16日に開館50周年を迎えました。館内での探索イベント「よのっこたからさがし」等、様々な記念イベントを実施しました。また、中央区の花であるバラをモチーフにしたオリジナルデザインの特別記念ロゴマークを作成し、利用者に配布しました。いずれも好評をいただき、図書館の利用促進につながりました。

7 武蔵浦和図書館入館者 500 万人達成

武蔵浦和図書館は、平成25年1月4日の開館以降、たくさんの方にご利用いただき、誕生してから8年10か月の令和3年11月14日に、入館者が500万人に到達いたしました。

これまでご利用いただいた方への感謝の意を込めて、オリジナル記念しおりの配布を行いました。これからも赤ちゃんからご高齢の方まで幅広い年代の方に親しまれる図書館をめざします。

8 大宮図書館入館者 200 万人達成

大宮図書館は、令和元年5月7日に新大宮区役所・大宮図書館が移転開館以来、多くの市民の方にご利用いただき、おかげさまで移転開館から2年10カ月目の令和4年2月22日に、入館者が200万人を突破しました。

記念すべき入館者200万人目となった来館者のご家族には大宮図書館長からお花と記念品を贈呈しました。